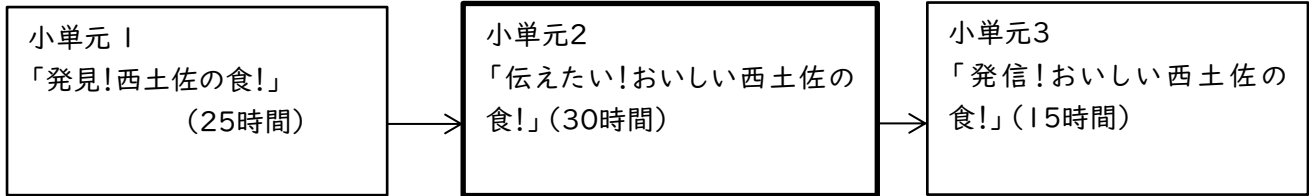


西土佐小学校 第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和3年11月11日(木)第5校時
児童数 16名
指導者 堀地 早紀

I 単元構想図

単元名 「ほんとおいしいけん!西土佐の食」 全70時間
小単元2 「伝えたい!おいしい西土佐の食!」 (30時間)



◆学習の流れ

きっかけ

小単元1では、西土佐の食を知るという目的のために、調べ学習や聞き取りを行ってきた。そのことからわかったことやもっとやってみたいことなどをたくさん出している。

第1次 自分たちが発信したいことは どんなことか考えよう。(5時間)

- 1学期にしたことを振りかえる。
- 自分たちが発信したいこと、発信したい相手などを決める。
- アンケートをとる。

◆教師の支援・働きかけ・指導上の留意点等
◆1学期の終わりに模造紙にまとめていることを見せながら、振り返りをさせる。その中で、農家の方や自分たちの思いや願いがあったことを思い出させる。

第2次 自分たちができることを考えよう(10時間)

- 1学期にお世話になった農家の方や「よって西土佐」の人、市役所の方などに意見を聞く。
- 高知県内の特産物や食に関する取組を調べる。

◆教師の支援・働きかけ・指導上の留意点等
◆本気になって取り組んでいる大人にも出合わせ、子どものやる気につなげさせる。

◆意識の流れ

・1学期には、農家の人やいろんな人たちに話を聞いたね。大変な思いをして育てていることや、いろんな工夫をしながら仕事をしていることがわかったね。

・1学期に見てきた農家の人たちの頑張りをほかの人にも知ってもらいたいな。西土佐小の子どもたちを含めて、西土佐の人たちも知らないかもね…。

・農家の方が全国に広めていきたいと言っていたよね。自分たちも西土佐の特産物を全国の人に知ってもらうためのお手伝いをしたいな。

・西土佐の食の良さを伝えるためには、西土佐の特産物のメニューを作るのはどうかな。栗農家の田辺さんがコラボメニューを考えてほしいと言ってたね。

・米ナス農家の新玉さんは、「全国に米ナスの良さを知ってほしい」と言っていたよ。全国に知ってもらう方法ってないかな…

・西土佐の食の良さを伝えるには、新聞をつくって、「よって西土佐」などにおいてもらうのがいいんじゃないかな。
・でも西土佐の人たちや観光客の人たちは西土佐の特産物を知っているのかな。

第3次 いろんな人に話を聞いたことや、調べたことを整理・分析しよう。(8時間)

○農家の方や「よって西土佐」の方に聞いたことや、アンケートの結果を整理・分析していく。

○発信したいことや相手など、発信したい内容や相手がいかがい確認する。

◆思考ツールをもとに、整理・分析させる。

◆算数や国語など他教科で学習したことが使えるように、声かけをする。

第4次 本当に自分たちが発信したい相手や内容は何か、吟味しよう。(7時間)

○他者の意見と自分たちがしてみたいことをすり合わせながら、西土佐の食のよさを伝えるための方法を決定し、実行していく。

・アンケート結果からこんな声があったよ、これを生かそう。

・自分たちは西土佐の食を元気にするためにたくさん方法を考えたけれど、本当にできるのかな。より伝わるにはどの方法がいいのかな。

・アンケートの結果や話を聞く中で、わたしたちが伝えないといけない相手は、今決めている人たちでいいのかな。

・やっぱり観光客向けに西土佐の食材を使ったメニューを作りたい!アンケートの結果も使って、こんなメニューを作ってみよう!

・「よって西土佐」の駅長さんにプレゼンテーションして、協力してもらえようになりたいな。

・自分たちがしていることを高知新聞の人たちに取材にきてもらえないかな。

単元でつきたい力

・西土佐の食の良さや特徴に気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

【知識及び技能】

・西土佐の「人・もの・こと」の中から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】

・自分たちが設定した課題の解決に向けて真剣に本気になって自分事として取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

本単元は、西土佐の食について知るだけでなく、地域の農業や産業を支える人々の思いや願い、西土佐の食を中心として活性化させようとしている人々の考えなどを知ることができる。西土佐の食について知ることを通して、西土佐の食を活性化させるために自分たちにはどんなことができるのかを考え、友達や地域の人たちと協働的に学びながら、西土佐を担うものとして地域に貢献しようとする力を育むことができる単元であると考

え設定した。
西土佐は、四万十川や山々に恵まれた自然豊かな土地である。そんな自然を生かして農業が行われており、特産品としては米ナス、ゆず、ししとう、栗、いちごなどがある。また、学校の近くには道の駅「よって西土佐」があり、特産品が売られていたり、特産品などが食事できる場所がある。子どもたちにとっても身近な場所である。また、児童の家族や知り合いなどで農業をしている人も多く、児童にとって「食」というものが身近であり、興味や疑問が持ちやすい課題となっている。社会科で農業や産業等について学習するため、他教科との関連も図りやすい。一方、農業や産業の課題として、一時衰退している分野があったり、作り手の高齢化や後継者不足などがある。しかし、そんな課題を克服しようと市役所などが関わって、地域の飲食店などと連携して特産物を売り出そうとしたり、使っていない土地を使って実験農園を行ったりしている。そのような取り組みに児童も関わり、地域を一緒に盛り上げ、地域を知り愛する心を育てるために適した単元であるといえる。

○児童観

本児童は、4年生のときに「四万十川」をテーマに学習をしている。水生生物調査や清流度調査などの体験を通して、四万十川をきれいにしたいという思いをもって学習をしている。また、4年生国語の単元で、西土佐の特産物をリーフレットで紹介する学習を行っている。

5月に行った「総合的な学習の時間についての授業アンケート」から、「総合的な学習の時間は楽しい」肯定的評価 87.5%、「総合的な学習の時間で取り組んでいる課題を、一生懸命考えている。」肯定的評価 81.3%という結果が出ている。比較的総合的な学習を楽しんでいることがわかる。また、「自分の地域が好きで、大事にしたいと思っている。」肯定的評価 81.3%と西土佐のことを好きな児童が多いことがわかる。しかし、「総合的な学習の時間では、自分の考えがほかの人に伝わるように、理由をつけて説明している。」肯定的評価 50%、「総合的な学習の時間では、自分から積極的に話しかけたり、発言したりしている。」肯定的評価 62.5%と、自分の考えを積極的に表現することには弱さがみられる。また、「ほかの教科の学習が、総合的な学習の時間の活動に役立っている。」の項目も肯定的評価 56.3%と低く、カリキュラムマネジメントを教師も児童も意識し、学習の有用性を持たせるようにしたい。

○指導観

小単元1では、西土佐の食材について知ることから始めた。インターネットで調べたり、家の人から聞き取りをしたりして情報を集めた。もっと詳しく知るために、「よって西土佐」に行ったりJAの人に話を聞いたりした。そこから知った情報を整理・分析していくとき、もっと調べてみたいことを絞っていき、より詳しいことを聞くために、農家の方にアポをとり話を聞いたり、実際に農園を見せてもらったりした。話を聞く中で、社会科で学習したことを基に、作り方や工夫、どんな思いや願いをもっていいのか、今感じている課題、それを解決するための取組などを聞き取った。

小単元2では、西土佐の食の良さを伝えるためにはどうすればいいかを考え、実行していく。まず1学期に学習したことをもとに、自分たちが発信したいことや発信したい相手などのゴールを決める。次に自分たちが今後していきたいことを決めていく。「西土佐の特産物をアピールするために特産物とコラボしたメニューを作りたい」「全国に西土佐の特産物を知ってもらうために、動画を作りたい」「新聞を作ってよってお店などにおいてもらいたい」などの意見が出てきている。出てきている意見が実現可能なのか、効果的なのかということを考えてながら絞り込んでいく。絞り込んでいく際には、1学期にお世話になった農家の方にアドバイスをもらったり、アンケートを取ったりして、自分たちの思いと他者（観光客や農家、西土佐の食を支える人たちなど）の意見をすり合わせていく。自分たちではわからないことがたくさん出てくると予想されるので、そのたびに地域の方に協力してもらいながら解決させることで、地域との関わりが常にあるようにしたい。その際には、目的に応じてどの方に声をかけたらいいのかも考えさせる。小単元の最後には、西土佐の食のよさを伝えるために実現可能で効果的な方法を絞り込み、次の小単元で実行していけるようにする。どの場面でもそれぞれが自分の考えや思いをもって話し合うことができるように、事前に自分の考えを書かせておきたい。また、全体で意見が出たときにはよりよい考えになるように吟味する活動を常にとり、資質・能力の育成に努める。

小単元3では、前単元で考えたことを実行していく。実行していく中で、地域の方の声を聞いたり、アンケートを取ったりしながらよりよくなるように改善していく。自分たちが決めたことが、形となって実現する体験をさせることで、「やりたい!」「やったらできるかも」という次への意欲や主体性を育みたい。また、情報収集や整理・分析などのサイクルを何度も回しながら、児童が思考し、自分事として真剣に取り組んでいけるようにしたい。

本時では、西土佐の食のよさを発信するために「何を」発信したいかということをめあてに学習する。自分たちの集めた情報を整理しているのので、本時ではグループにわかれて2つの内容にしばりこむ。その後ピラミッドチャートを使い発信したい内容を全体で話し合っていく。その時に、発信したい相手やアンケート結果、県内の他の特産物や取組などをもとに、自分たちの思いも合わせながら話し合いをさせていく。全体共有していく時にも子どもが主体となり進められるようにする。「本当に自分たちが発信したいことは何か」ということを目的に合わせて考えられるように常に問い返していく。

3 単元の目標

西土佐の食について触れることを通して、地域の人たちが西土佐の食を支えるためにいろんなことに取り組んでいることを理解し、西土佐の食の活性化のために自分たちにできることを考えるとともに、自分の生活や行動に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
①西土佐の食について知り、それに携わる人々の思いや願いがわかる。 ②インタビューなどの調査活動を相手や場面に応じた方法で実施している。 ③西土佐の食を支える人々の思いや願いが、西土佐の食の活性化につながっていることへの理解は、西土佐の特色やそれを支える人たちが行っている取組などを探究的に学習してきたことの結果であることに気付いている。	①西土佐の食を活性化するための課題を設定し、解決するための計画を立てている。 ②西土佐の食を活性化するために必要な情報を収集している。 ③集めた情報を比較・分類し、西土佐の食を活性化するための取組を考えられている。 ④伝える相手や目的に応じて、伝え方を工夫しながらまとめ、表現している。	①西土佐の食を活性化させるために、目的意識をもって意欲的に取り組もうとしている。 ②探究的な活動を通して、自他のよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③地域との関わりを通して、地域のために自分ができることを見つけようとしている。

5 指導と評価の計画(全30時間 本時 17/30)

次	時	ねらい(○)と学習活動(・)	評価の重点			評価方法
			知	思	態	
一	1 5	○西土佐の食の良さを伝えるためには、どんなことをしたらよいかを考えることができる。 ・1学期にしたことを振りかえる。 ・自分たちが発信したいことや発信したい相手を決める。 ・アンケートをとる。		①	①	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
二	6 15	○西土佐の食の良さを伝えるために、自分たちが決めた方法が、実現可能で効果があるのかを吟味することができる。 ・自分たちが「何を」伝えたいのか話し合う。 ・1学期にお世話になった農家の方や、「よって西土佐」の人、市役所の方などに意見を聞く。 ・高知県内の特産物や食をアピールするための取組などを調べ、西土佐のものと比較する。	①	②	③	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り

三 整理・分析	16 ～ 23	○農家の方や「よって西土佐」の方に聞いたことや、アンケートの結果を整理・分析することができる。 ・わかったことを書き抜き、整理する。 ・わかっている情報を分析し、自分たちが「何を」発信したいのか吟味する。(本時) ・自分たちが発信したい相手や内容が本当に今決めていることでもいいのか、再度検討する。	②	③	①	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
	四 まとめ表現	24 ～ 30	○西土佐の食のよさを伝えるための方法を実行していきことができる。 ・調べたことや地域の方たちにもらった意見を参考にしながら、自分たちにできることを決定する。 ・小単元をまとめる。		④	② ③

6 本時の指導

本時の目標	自分たちが西土佐の食の「何を」発信したいのか、発信したい内容を吟味することができる。	
本時の評価規準	思考ツールを使って意見を述べたり、友達の見解も踏まえたうえで、自分たちが発信する内容について検討している。【思考・判断・表現】	
準備物	ワークシートなど	
学習の展開		
学習活動	意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 前時までを振り返る。	・高知県内の特産物を調べたり、地域の人に話を聞いたりしたね。 ・今集めた情報をもとに「何を」発信するのかわびらいていきたいな。	
2. めあてを確認する。		
西土佐の食「オンリーN」は何かな。発信したい内容を話し合おう。		
3. 整理しているものを使って、短冊を班で2つにしぼる。(班)	・市役所の方が、栗農業を活性化させていると聞いていたね。ぽっぽ栗も人気だし、もっと西土佐の栗づくりについて知ってほしいな。 ・ゆずづくりは、馬路村のイメージが強いけど、西土佐もがんばっている農家の人々がいたね。そのがんばっている農家の人々のことを伝えたい。	思考ツールを使って意見を述べたり、友達の見解も踏まえたうえで、自分たちが発信する内容について検討している。 【発言・振り返り】
4. 班で選んだものを全体で出し合い、「何を」伝えたいのかをピラミッドチャートを使って、絞り込む。 【しぼりこむときの視点】 相手に合っているか 他の県内の取組と比較 アンケートの結果	・これからの季節のことを考えると、いちごづくりのことを発信するのがいいんじゃない。 ・いや、西土佐と言えば路地面積が一番の米ナスでしょ。でも、多くの人たちがあまり知らないから知ってほしい。	

<p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日グループで話してみても、よりよい案にすることができた。 ・話し合いの中で、地域の方の思いやアンケートからわかったことも入れて話すことができた。 ・実行できることに、ワクワクしてきたから、実現できるようにがんばりたい。 	
-----------------------	---	--

7 板書計画

西土佐の食のよさを伝えるために！

発信する相手・・・観光客

西土佐の食「オンリーN」は何か。発信したい内容を話し合おう。

話し合うときの視点

- ・相手に合っているか
- ・アンケートの結果より
- ・聞き取りしたこと
- ・ライバルと比較

掲示物